

2017年度しあわせ研究

「むさしの IPE」がめざす
しあわせのカタチ

研究員 山本摂子



私が看護職として勤めるこの数十年、日本の医療は、医師主導から、多様な専門職が協同して対象者に最も望ましい医療を提供するチーム医療に変化しました。また、病や障害を持っている人の生活の場は、施設から地域に広がり、社会資源活用のための福祉職との連携が重要になっています。

本学には専門職を目指す福祉・医療系学科として社会福祉学科、薬学科、看護学科、言語聴覚士養成コースの3学科・1コースがあります。社会福祉学科・看護学科の学生は1年時の武蔵野BASIS（全学共通基礎課程）で交流の機会があるものの、これらの学科全ての学生にはありませんでした。

授業担当がご縁となり、社会福祉学科の小俣智子先生と「医療・福祉系学科の学生と教員が一緒に何かできたらいいね」と話したことをきっかけに、言語聴覚士養成コースの小野真理子先生、畠山恵先生、薬学部的小川潤子先生、益戸智香子先生とつながる中で「何か」は、チーム医療に携わる能力習得のための専門職連携教育（Interprofessional Education、以下 IPE）への取り組みだともまりました。

本邦での IPE 報告は医学部主体の授業としての実践が主ですが、「むさしの IPE」では、半日の各専門職体験を軸としています。2016年2月から実施した計5回の体験にのべ140名の学生が参加しました。学生たちは、様々な体験を通して、他の専門職について知り、自らの専門性の学びを深め、終了時には互いに語り合い、参加して良かった、楽しかったと口にします。

professional を目指す学生と専門職である教員がそれぞれの専門性の inter（際）に触れることは、未知の知に触れ知識を得る楽しさをもたらします。この楽しさや企画会議での交流からも教員は「しあわせ」を感じています。これらの「しあわせ」は、学生に波及し、将来学生たちが携わるチーム医療という「カタチ」につながり、世界の人の「しあわせ」をもたらすでしょう。

これからもしあわせを感じる楽しい活動を続けてまいります。今後の活動に、どうぞご関心をお寄せください。



IPEメンバー 左から前列：小野、山本、小俣 後列：畠山、益戸、小川（敬称略）